

同窓会の幹事を任された井上は、久しぶりに高校時代の友人に電話を入れた。

「はい、阿部です」

「夜分遅く恐れ入ります。井上と申しますが英一さんいらっしゃいますか？」

「まだ仕事から帰ってきてないんですけど・・・」

「あ、そうですか。私、英一さんの高校時代の友人なんですけど、来月同窓会を開くことになりました、その連絡なんです」

「そうですか。それでは戻りましたら英一の方からすぐお電話させます。すみませんが、お名前をもう一度お願いします」

「井上厚と申します」

「井上厚さんですね。こちらのお電話番号は、英一は存じておりますか？」

「はい、ご存知だと思いますが一応申し上げます。八一―八一―八三―です」

「八一―八一―八三―ですね、わかりました。英一は最近忙しいようで、帰りが遅い日が多いんです。あまり遅いようでしたら明日連絡させますね」

「すみません。あいにく明日は一日中外出してしまいますので、できれば伝言をお願いしたいのですが」

「はい、どうぞ」

「来月二十一日の土曜日に、一時から麻布のイタリアンガーデンというレストランで同窓会を開くことになったんです。それで、その出欠を来週中に知らせてほしいとお伝えいただけますか？」

「来月二十一日の一時からですね。わかりました、伝えておきます」

「よろしくお願いします」

数日後、阿部から連絡が入った。

「はい、井上です」

「夜分恐れ入ります。阿部と申しますが、厚さんご在宅でしょうか？」

「もしもし阿部か、久しぶり！」

「久しぶりだな！ この前同窓会の連絡をくれたそうだけど、二十一日は残念ながら出席できそうもないんだ。最近仕事が忙しくて土曜日でも休日出勤なんだよ。二十一日は昼過ぎには終わると思うんだけど、それから麻布まで行っても一時には間に合わないしな・・・」

「もしよかったら、途中からでも出席できないか？ みんな久しぶりに会えるのを楽しみにしてるからさ」

「そうだなあ・・・それじゃ早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、レストランの住所と電話番号を教えてください」

「住所は東京都港区麻布台一―七―八、電話番号は〇三―三八五―一二四―、イタリアンガーデンというレストランなんだ。大通り沿いにあるから場所はすぐにかかると思うよ」

「わかった、ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるよ」

井上はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに、再度確認の電話を入れた。